

個別事業名	(6) 思春期ハンドブック事業																								
事業の趣旨・目的	<p>○本県では、望まない妊娠の結果である10代の人工妊娠中絶件数は減少傾向にあるものの、実施率では全国平均より高い状態で推移しており、性感染症の罹患も10代でもみられている。人工妊娠中絶は女性の身体と心に大きな影響を及ぼし、中絶を繰り返せば出産時の胎盤の癒着や不妊の原因となる場合もある。また、性感染症が女性及び男性の不妊の要因となり得ることは明らかになっている。このため、思春期の男女が身体や機能についての理解を深めるだけでなく、特に思春期の性行動に対する適切な知識や情報の提供が不可欠である。</p> <p>○また、思春期の性に関する相談に対応する「高知県思春期相談センター」に寄せられる相談の約8割近くを中高校生の相談が占めており、思春期の子どもたちに直接届く形での積極的な情報発信や啓発が必要であり、効果的と考える。</p> <p>○さらに、早産の割合が6.3%、低出生体重児の出生割合が10.7%（いずれもH25値）と全国に比較して高い状態で推移している本県においては、県独自の早産防止対策などに取り組んでいるが、思春期からの正しい知識の普及啓発による健康管理が重要となる。</p> <p>○このため、本県における課題の解決と少子化対策にもつながるよう、性に関する正しい知識の提供に止まらず、将来の妊娠・出産などライフプランを積極的に考えるうえで必要な情報、不妊の知識や日常生活での留意点なども含めたハンドブックを作成し、高等学校をはじめ中学校で活用するなど、啓発の強化に取り組む。</p> <p>◆高知県における10代の人工妊娠中絶率の推移</p> <table border="1" data-bbox="532 898 1526 996"> <thead> <tr> <th></th> <th>H19年度</th> <th>H20年度</th> <th>H21年度</th> <th>H22年度</th> <th>H23年度</th> <th>H24年度</th> <th>H25年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>高知県</td> <td>10.1</td> <td>10.8</td> <td>11.5</td> <td>10.3</td> <td>10.0</td> <td>9.2</td> <td>8.1</td> </tr> <tr> <td>全国</td> <td>7.8</td> <td>7.6</td> <td>7.1</td> <td>7.0</td> <td>7.1</td> <td>7.0</td> <td>6.6</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">ワースト7位</p>		H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	高知県	10.1	10.8	11.5	10.3	10.0	9.2	8.1	全国	7.8	7.6	7.1	7.0	7.1	7.0	6.6
	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度																		
高知県	10.1	10.8	11.5	10.3	10.0	9.2	8.1																		
全国	7.8	7.6	7.1	7.0	7.1	7.0	6.6																		
事業内容	<p>①性や妊娠・出産に関する正しい知識の普及、啓発（継続）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・思春期ハンドブック（男女共用版）作成にあたっての検討会（メンバー4名程度：産婦人科医師、泌尿器科医師、助産師、教育関係者等）の開催（1回程度）</li> <li>・検討会での内容を踏まえた思春期ハンドブック（男女共用版）の作成（13,000部）</li> <li>・県内の高校生や教職員等に配布</li> </ul> <p>②ハンドブックを活用した性の講話等の実施（既存事業の活用）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・既存事業として実施している性の講話や性に関する専門講師派遣事業での活用</li> <li>・アンケートによる効果や今後の課題や改善点の確認</li> </ul> <p>※参考〈性の講話〉県の思春期保健担当職員が中・高等学校からの依頼を受けて実施 〈性に関する専門講師派遣事業〉高等学校等に性に関する専門講師（産婦人科医師・助産師）を派遣して実施</p> <p>（継続の理由）：平成26年度に男子生徒版ハンドブックの作成、配布を実施したことで、男子生徒に対する普及、啓発にはつながったと思われる。しかし、生徒全体を対象とした健康教育の機会での活用が難しかった。既存事業の性の講話や性に関する専門講師派遣事業による講演は生徒が性に関する知識や情報を得て、望ましい保健行動につながる貴重な機会となっており、男女共用のハンドブックを作成して積極的に教材として活用することで、思春期の子どもたちに対して妊娠・出産に関する正しい知識のより効果的な啓発が図れるものと考え、継続して実施する。</p>																								
先 駆 性	<p>本県では平成15年に全国で初めて自治体による高知県思春期相談センターを設置し、思春期における悩みや相談に応じるとともに10代の人工妊娠中絶など思春期保健の課題に取り組んできた。</p> <p>平成23年度からは女子生徒等、平成26年度には男子生徒等を対象とした思春期ハンドブックを作成し、妊娠・出産に関する正しい知識の啓発と思春期からの健全な身体づくりに努めている。</p> <p>この計画は、性に関する正しい知識の提供にとどまることなく、将来の妊娠・出産などライフプランを考えるうえで必要な情報、卵子の老化、男性不妊、不妊の知識、具体的な日常生活での留意点も含めた啓発を実施するものであるが、次年度は、思春期相談センターを中心に教育現場等と連携した啓発活動の展開により、思春期の子どもたちがお互いの性を理解し、将来に向けた保健行動がとれる力を醸成していく。</p>																								
所要見込額	622 千円																								